

去る6月2日(日)、香里教会では、カトリック大阪高松大司教区のパウロ酒井俊弘司教様により、

「キリストの聖体」を記念するミサが執り行われ、

6名の若人が「堅信の秘跡」に与かりました。

去る6月2日、カトリック香里教会では酒井司教による「キリストの聖体」を記念するミサが執り行われ、この記念すべき日に、香里教会の6名の若い信徒が、司教様から**堅信の秘跡**を授けていただくことができました。

(説教台で話される酒井司教)



「堅信の秘跡」について

酒井司教様のお話から

今日は「キリストの聖体」を記念する祝日であり、この日

に**堅信の秘跡**を授かることは、

偶然ではなく、神からの「呼びかけ」です。それは受堅者だけでなく、代父代母そして香里教会の共同体のみなさんへの「呼びかけ」です。その「呼びかけ」を沈黙のうちに心をすまして聴き取りましょう。

香里教会では今日6名の若い信徒がミサのなかで**堅信の秘跡**に与ります。そして、この日が偶々「キリストの聖体の日」であること、これも神様からの呼びかけです。この呼びかけを聴くには黙って聴かないといけない。沈黙のうちに味わうことが大事です。だからこそ、典礼中には「沈黙の瞬間」があるのです。

ミサで司祭が説教した後、席に戻ってしばらく沈黙の時間を持ちます。それは、信徒の皆さんにとって、今聞いた説教が私にとってどういう意味を持つかを考える時間なので

す。ご聖体というのは神様そのものであると同時に、極めて人間的なもののなのです。

堅信の秘跡を受けることは一生に一度かぎりです。

まず「ご聖体」に心を向けましょう。「ご聖体」はきわめて神的存在であると同時にきわめて人間的なものです。普通のパンであるのに、司祭が聖別の言葉を述べることによって、そのパンにイエス・キリストがおられることになります。

堅信式においては、受堅者の額に聖香油が塗られます。

聖週間の聖香油ミサにおいて前田大司教様が聖別された香油です。それには香料バルサムがふんだんに入れられていて、嗅げばとてもいい香りがします。それはキリストの香り、「暖かい心」のあふれ出た香りです。今日の受堅者、そしてその堅信式に与った香里教会の信徒の皆さんは、新しい信仰の道を歩み始めます。さて、今日は「キリストの聖体」の日であり、キリストの聖体をいただく私たちは、私たちの身体の中にそれをい

ただいて、この人生を歩んでいきます。信仰の歩みは「聖体行列」になぞらえることができます。聖体を拝領した私たちは、聖体を自らの中に宿して人生を歩むことになりました。それは、一生かけての「聖体行列」です。

ミサで司祭が説教した後、席に戻ってしばらく沈黙の時間を持ちます。それは、信徒の皆さんにとって、今聞いた説教が私にとってどういう意味を持つかを考える時間なのです。ご聖体というのは神様そのものであると同時に、極めて人間的なもののなのです。



2024年6月2日香里教会で堅信の秘跡を受けた方々

洗礼名	氏名(年齢)	地区	洗礼名	氏名(年齢)	地区
テレジア	尾崎 優咲(19)	F	クララ	尾崎優芽(17)	F
使徒 ヨハネ	瀬尾隼ノ介(14)	A	使徒 ヨハネ	長田航祈(13)	D
バルナ デッタ	尾崎莉奈(13)	F	アッシジの フランシスコ	島内一樹(12)	A

6月2日、「キリストの聖体」の主日に、下表の6名(左写真)が堅信の秘跡を受けました。